

こどもの「やりたい」を実現する総合的な学習の時間

小学校高学年における幼年教育と学びの深まり

塩尻市立塩尻東小学校 渡澤 幸弥

1. はじめに

本校では今年度幼年教育教育課程研究協議会において幼年期の育ちを学童期につなぐ際の大切な点を学び、実際の授業において実践してきた。幼年教育の10のピクトグラムをもとに私のクラスでは、「思考力の芽生え」に関して高学年における総合的な学習の時間を主軸として研究・実践をしてきた。



身近な事象に積極的に関わる中で、物性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら自分の考えをより良いものにするようにする。

今年度の総合的な学習の時間は「かるた作り大作戦」という活動を行っている。本校には約10年前に作られた「東っ子かるた」というものがあり、昨年度はこのかるたを基に総合的な学習の活動をすすめていた。以下に昨年度までの活動の経緯をまとめる。

【立ち上がりと活動の展開】

3年生では地域の湧き水「強清水」で、活動を展開し楽しんだ子ども達。

4年生になり“東っ子カルタ”で地域を学ぼうと考えた子ども達は、カルタ札と自分との記念撮影をコンプリートしながら学びたいと言いはじめた。活動を進めるうちに、“のどかな地 神の宿りし 霧訪山”に出合う。「霧訪山ってどこ?」「神が宿ってるってどういう意味?」「霧訪山って何がある?」「霧訪山に行ってみたい!」と子どもの意識が高まっていった。

【4年生は塩尻東地区を学ぼう】

塩尻東小学校には、平成27年に児童によって制作された「東っ子カルタ」がある。子どもが入学して頃からあり、各クラスに普通サイズ10セット、ジャンボサイズ1セットが常備されている。また、46音の中で27札が地域の中に立てられており、子どもの生活圏内にある。塩尻東小学校敷地内にも5札が立てられている。子どもの身近にある東っ子カルタであり、自然に「カルタの立て札と自分を一緒に写真を撮りたい!」「じゃあさ、全部撮ってコンプリートしたい!」と、やりたい活動が立ち上がった。担任は、地域に出ていくきっかけができたことを喜んでいた。地域を歩いているうちに子ども達は何かを見つけるのではないかと期待していた。探検活動を続けていると、数人の男子が

- 「のどかな地 神の宿りし 霧訪山」の札に注目した。
- ・霧訪山ってどこ?
 - ・神が宿るってどういう意味? 神って?
 - ・近くに霧訪山があるってことは皆知らないってこと?



自分たちで調べ始めて、タブレットにデータをまとめて報告しに来た。

霧訪山魅力

- ・低山ながらも信州の多くの山を望むことができる展望スポット。標高が1305m
- ・山頂からは松本、伊那、諏訪地域が一望でき、南北アルプスや御嶽山、八ヶ岳、はるか遠くは妙高山などの山々も望めます。

長野県「冬の里山総選挙」*第1位！霧訪山。塩尻の名峰・霧訪山。

山名	標高	距離
■妙高山	2454m	92.9km
■高妻山	2353m	82.1km
■光岳	2591m	81.4km
■白馬岳	2932m	78.9km

霧訪山の事

- ・絶滅危惧種のオキナグサオキナグサ
- ・辰野町と塩尻市の境にある霧訪山。標高は1305メートルで、雪が無ければ保育園の園児でも登ることができる里山だ。
- ・カタクリ、ニリンソウ、スミレなどの春の花に加え山頂では地元の方々に大切に守られているオキナグサを見ることができます。
- ・さらに日本のほぼ中央に位置する山頂からの展望は必見！花と展望を求めて春の霧訪山。

その後、「実際に登ってみたい」という強い願いを持った子どもたちが地域の方と登山をした。

【登山を終えて】

子ども達がつくったふりかえりの学習カードは五感を言語化する内容。子どもが実際に登山をして感じたことをそれぞれの言葉でまとめた。

耳で感じたこと 目で感じたこと 匂いで感じたこと 触って感じたこと

【五感で感じたこと】

Aさん

目	小野神社には御柱があり、アカマツの木は太かったです。霧訪山に登る途中にきのこがたくさんありました。木の根っこが階段状になっていました。霧訪山は自然豊かだなとおもいました。細い木や太い木がバラバラにありました。霧訪山、最後の下るところに川が流れていてその水は透明で透き通るように輝いていました。
触って	夢叶う霧訪の鐘を鳴らす器具は歴史を感じてよい音が鳴りました。川の水がひんやり冷たくて透き通っていて気持ちよかったです。登っている最中に冷風があたってヒンヤリした空気がとても気持ちよかったです。
耳	霧訪山の鐘を鳴らしたら心地よいカーンという音がずっとつづいて気持ちよかったです。川の音がちょびちょびとして、最近川に行っていないので、こんなにきれいな音がするんだなと思いました。葉っぱの揺れる音が安らいでいていい音でびっくりしました。
匂い	霧訪山の匂いは、いつもと違い、木や草の匂いがまじって、ほのかに大地のよい香りがしていました。山頂も登り切った達成感と共に堂々と良い匂いがしました。
味	秋の霧訪山の空気は、いつもの空気と違って山で感じる新鮮な空気でした。山頂の空気は清々しくて、山の登り途中とは違う良い味でした。

昨年度までの担任まとめ資料

2. 実践に向けて

授業実践に向けて最初に行ったことは、児童理解である。私が所属する研究部会では、子どもたちの育ちへ目を向け、子どもの意識で授業を作るために研究部会の毎時間に担任と部会メンバーとの児童理解をすすめてきた。

ロイロノートを活用し①子どもの実態や姿と②それに対するそれぞれの先生方の考え、自分ならどう対応するかななどの意見交換をしてきた。自分一人の価値観だけで子どもに接するのではなく、複数の教師からの視点で子どもを見ることで、一人一人の児童をより多面的に捉えることにつながった。また、この機会から子どもがなぜそのような行動をするのか、子どものこれまでの生活や環境などを振り返りながら子どもについて理解することにつながった。以下は相談の例。

部会内での悩みの相談シート

白が悩み・黄色が各先生の意見

☒ 活動の計画について

田んぼの学習・カルタづくり・保育園との交流 怒涛の活動量ですが、うまく時間を 生み出してやっていければと思います。保育園との交流やカルタについては意欲的だが、田んぼについては、まだ活動が始まっていないため漠然とした様子。田植え後の子どもたちの変化に期待したい。子ども達に米を作って何をしたいか聞いたら、「みんなで食べたい」「給食に使ってほしい」「米の値段が高くなっているから困っている人に安く売りたい」など様々な願いをもっているのも子どもはどう活動をしていきたいか計画をしていきます。

A 先生	5 年生の怒涛の日々は体験しないと分からないものがありますよね。本当にお疲れ様です。願いがあつての活動だと思います。やっていくうちに変わっていくのが自然だと思います。それを柔軟に受け止めて軌道修正することが大切かと考えます。
B 先生	プール掃除に、田植えにお疲れ様です。田植えの大変さがわかるとお米に対する思いも変わってくるかもしれないですね。田植えが終わった後、子どもたちの気持ちの変化が楽しみです。

子どもとの出会いと活動の立ち上げ

今年度より塩尻東小学校に勤務し、4 月に今のクラスの子どもたちと出会ったと同時に「東っ子かるた」に出会った。最初はこのかるたが何のかるたかわからなかった。昨年の総合は何をやったのか聞くと、子ども達から「去年は霧訪山に調査団として登ったんだよ。」と聞き、「それはどんな山なの。」と聞くと、「東っ子かるたにある山でね…。」と興奮気味に話していた。はたして霧訪山とはどんな山なのか、そして東地区には何があるのか、そもそも活動の発端となったこのかるたは誰が何の目的で作ったのか見当もつかなかった。そして、今年度は幼年教育の公開授業もあると聞き、そもそも高学年の授業で幼年教育とは何をしたらいいのかと疑問に思いながら年間計画を立て始めた。3・4 年時の担任から昨年度は地域の材を活かした活動を行ってきたこと、霧訪山に登ったこと、かるたの読み札作りをしてきたことを聞き、昨年度までの経験を活かせる活動をしていきたいと考えた。その話を子どもたちにすると、「調査活動をしたい。」「地域に出てなにかしてみたい。」という子どもたちの願いと実際訪れて山の魅力を知ったことを合わせ、かるた作りを行うこととした。かるた作りの活動が立ち上がったタイミングで、10 年前にかるたを作った先生からどのようにしてかるたを作ったのか、なぜ作ったのかの話を聞くことができた。10 年前も子どもたち目線で作ってきたことを聞き、経験豊富な子どもたちならではのかるたを作ることができるのではと考えた。また、子どもたちは、自分たちの作るかるただけでなく、「10 年前のかるたの迷惑にならないように作りたい。」「10 年前の人たちの願いも大切にしたい。」と口にし、どちらも大切にしたいと考えていた。

3. 実践と子どもの様子

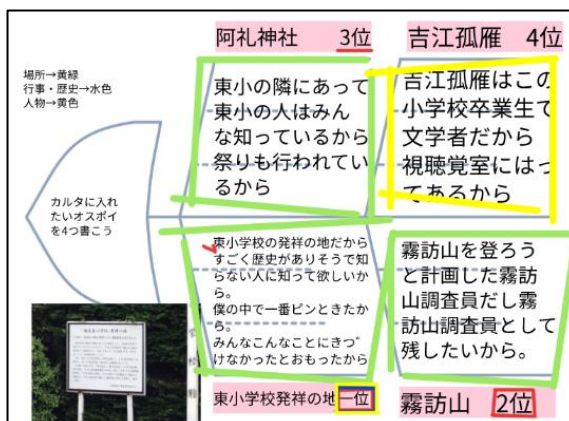
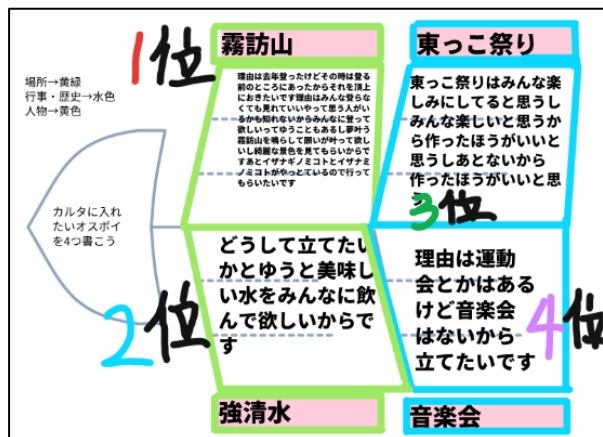
ここでは、子どもたちの活動の様子をまとめていく。

① 今のかるたで遊ぶ・オスポイを作る

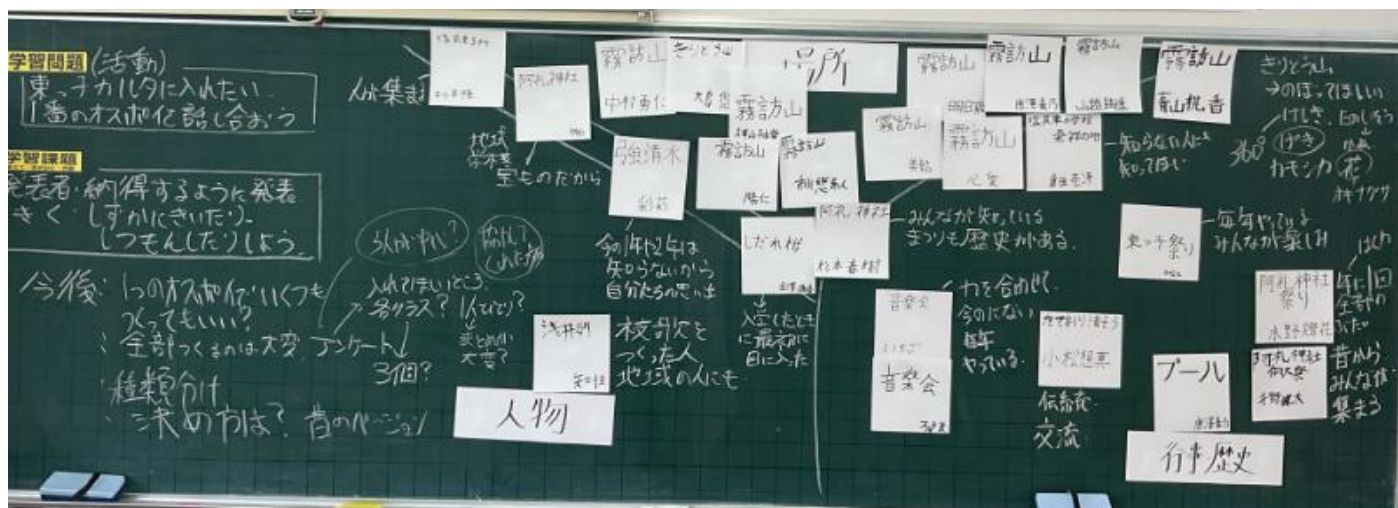
カルタづくりの活動を始める際に、今のかるたで遊ぶ時間を設けた。子どもたちにとって馴染みのあるかるたのため、この時間はかなり盛り上がった。その後、地域のどこがかるたになっているかを調べる時間とした。ここで子どもたちは、「ここって去年調査に行ったときに写真を撮らなかったっけ?」「この場所って、視聴覚室の地図に載っていたはず。ちょっと見てくるね。」と過去の学びや今までの学校生活の中から得られた知識や体験をフルに活用して活動をしていた。他にも「ここってどこなの?」「ここは〇〇君の家に向かう途中にあるよ。」など、自然と対話が生まれていた。



その後読み札作りをしていく活動に移るが、カルタにしたい場所をオスポイ（オススメポイント）として、人物・場所・行事、歴史の3つの観点から材料を集めた。東地区に存在するもので、自分たちが実際に行ったり見たり、そこで体験したり経験したりしたことを基準としてオスポイを集めた。圧倒的に多かったのは、霧訪山だった。実際に登山をした体験が強く心に残っているからと考えられる。



子どもたちが考えたオスポイ(上)



オスポイ No1 の共有

オスポイ作りと同時進行で行った、新たに作るかるたの名前決めはかなり時間がかかった。子どもたちがこのかるた作りに対してかなりの熱意をもっていただけと考えられる。ある児童が「今回のかるたは東っ子かるた Ver 5 がいいんじゃない。僕たち 5 年生だから。」と言うと「いいと思うけれど、バージョンだと他にもある感じがするよ。」「じゃあ No5 は?」「それも No2 とかありそうだよ。」といったやりとりがあった。最終的に「第 2 弾にしたらいいよ。」という意見が出た。その意見に共感する意見が多くあった。そこで担任から「“2”ってどれ使うの? 数字? 漢字? 漢字なら二と弍があるけど?」と問いかけると「数字の 2 は洋風な感じがする。かるたは和じゃん。」という意見から、満場一致で“弍”に決まった。名前が決まると「和風な感じがしてカッコいいね。」「この弍って〇〇 (アニメキャラクター) の弍だよ。いいじゃん。」と声が上がっていた。

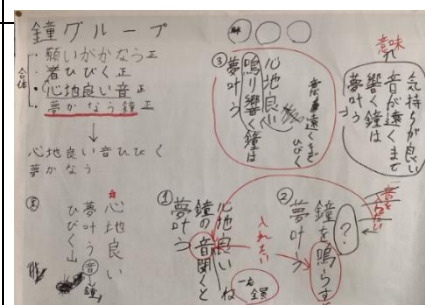


②読み札案作り

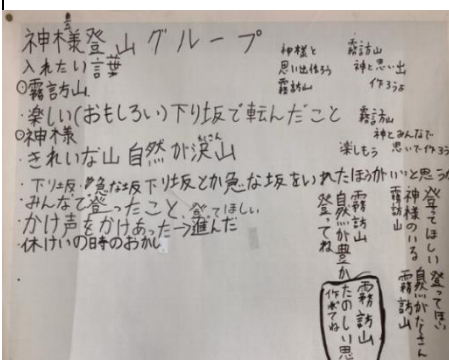
子どもたちが作ってきた読み札案

だったが、他の読み札とかぶってしまうことを意識していた。最初の文字が霧訪山に決まり、最後の語が「延々と」と「永遠に」の2つに分かれた。真ん中の「青空絶景」が延々と続いていることを伝えるのか、「青空絶景」を永遠に守っていきたいのかという話し合いが行われ、最終的に「霧訪山 青空絶景 永遠に」に決まった。

鐘グループでは山頂にある鐘を鳴らしたことを読み札に表した。子どもたちは、「この鐘を鳴らすと願いが叶うんだよ。」「夢叶う鐘って言葉は使いたいな。」とみんなに知ってほしい内容を表していた。また「あの鐘の音って聞いていると心地よかったよね。」「分かる。」と音を聞いた自分たちの体験も表そうとしていた。できあがった読み札は「夢叶う 鳴り響く 鐘は 心地よい」に決まった。



〇登山グループでは、自分たちが実際に登った体験をもとに読み札作りを進めた。霧訪山は神がいるという言い伝え、「自分たちが実際に登って楽しい思い出が残っていることを伝えたい。」「掛け声があったから大変だったけれど進んだ。」「休憩時間のお菓子が美味しかった。」など、自分たちの思い出を元に話し合いを進めた。実際に登ったからこそでる発言ばかりだった。子どもたちが決まった読み札は「神様と 思い出作ろう 霧訪山」だ。「神様と」と入っている理由を聞くと、「霧訪山には神様がいます。僕たちはみんなで登って楽しい思い出ができたけれど、それは神様もいたから。だから、神様も僕たちの一員として一緒に登っているから「神様と」にした。」と話していた。こちらも自分たちの体験から次に登山をする人に向けての願いを表現したものだ。



公開授業時の読み札

④公開授業以降の活動

10月1日の幼年教育教育課程研究協議会での公開授業後にも読み札作りは続いている。これ以降の読み札については、実際に地域に出かけ、子ども目線でどのような読み札ができるか、どのようなことを伝えるかという材料集め、その材料をもとにグループを作り読み札を作成するという流れで行ってきた。調査に行く場所は、全校にかかるたにしてほしい場所

東っ子カルタアンケート(高学年用)

Q1 新しく東っ子カルタにしてほしい場所、人物、歴史、行事を教えてください (いくつでもいいです)

Q2 1で選んだ理由を教えてください (理由を書けるクラスだけ)

児童が作成したアンケート

のアンケートをとり、どこがかかるたに良さそうかという話し合いをした。その結果、地域の文学者である吉江孤雁先生の生家、地域の公園、神社2ヶ所、地域にある重要文化財である小野家住宅に決め、調査に出かけた。他にも地域に伝わる歴史的な場所やものだけでなく、県内でも有名な焼肉屋さん、アンケートから出た校内の事や、学年の行事などもかるた候補に挙がっている。今までの活動でアンケートを作ったことを思い出し、全校にオスポイを募集するアンケートも自分たちで作った。また、それに併せてポスターやアンケート・自分たちの活動の説明も自分たちで考えていた。

⑤調査活動

調査活動は3回行った。1回目は吉江孤雁先生の生家と前山公園、2回目は健國神社と三嶽神社、3回目は文化財の小野家住宅だ。三嶽神社では、どんな神様が祀られているか、神社の中にあるものは何かの説明を宮司さんにお聞きした。小野家住宅では管理をされている方に、小野家に実際に泊まった人が払ったお金を見せただけたり、実際にお客さんが泊まった部屋を見学させていただき、説明を受けたりした。説明を聞いたことだけでなく、自分たちが実際に体験したからこそ出てくる表現や言葉遣いが見られた。また、自分たちの見たことや聞いたことを短い言葉でどれだけ相手に伝えられるのかという課題にもそれぞれが知恵を出し合うことで解決していく姿が見られた。



神社にあった樹齢 500 年の大木の切り株を見て、「1周どれくらいの長さなんだろう？」と疑問に思い手をつないで長さを測る子ども。



宮司さんに話を聞き、何の神様が祀られているのか、本殿の中にあるものについて説明を聞く子ども。



文化財である小野家住宅の管理をされている方から部屋の説明を受ける子ども。それぞれの客室に花と動物の絵が描かれていることを教えていただいた。

4. 成果と課題

読み札作りをしていく中での課題

今回の読み札作りではオスポイをもとに、場所やものについての読み札を作っていた。初めのうちは使われていない文字が多いため比較的言葉を選びやすいが、活動の後半になってくると使用できる文字が限られてくるため、言葉選びが難しくなってくる。実際に出来上がった読み札も、「ねえ、この文字もう使われている



完成した読み札

よ。」「うそ、本当じゃん。どうしょ。なんか他の言い方ないかな。」と子どもたちは自分の知っている言葉で他の言い方ができないかと調べていた。今回の活動でも子どもたちはより良い言葉を探すために ICT 機器を活用していた。ICT 機器であれば、短時間でより多くの言葉を得ることができる。しかし、そのメリットばかりを重視したために子どもたちにとっては膨大な量の情報を得ることになった。その情報の中から情報を取捨選択するのはかなり高度な技術である。ここ最近ではインターネット検索をかけると、AI の情報も出てくる。それを活用すること自体はかまわないが、本当にその情報が正しいのかということまで調べるよう声がけを継続していく必要がある。また、情報の比較（今回であれば言葉の比較や意味合いなど）ができるようになるようになるために情報活用能力を高めていく必要があるため、国語辞典などを用意し、国語化で習ったことを生かせるようにすればよかった。

5. 地域の資源や保育園・幼稚園での経験の活用の有効性

地域の資源や子どもたちの過去の経験が、学びを深める重要な要素となっていた。例えば、保育園で学んだ「美味しい水」の経験が、霧訪山登山やカルタ作りに繋がった事例が挙げられる。このように、保育園や幼稚園時代の学びが小学校での活動に活かされることは、学びの積み重ねの重要性を示していたと考えられる。また、子どもたちが身近な地域の資源について調べ、言葉として表現することで、地域への愛着や理解が深まったと感じられる。これは、幼年教育の 10 の姿の一つである「思考力の芽生え」にもある、「友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら自分の考えをより良いものにするようにする。」の姿にもつながっていたと考えられる。かるた作りをたんなる言葉選びとして終えるのではなく、そこに子どもたちの願いを入れていくことが重要だと感じた。読み札に自分たちの思いを伝えることを通して、伝え合いの力を高めるだけでなく、言葉の使い方や表現力も高まったと思われる。

6. 今後の活動

年度当初の予定では、読み札だけでなく絵札も完成する予定であった。しかし、地域の活動（お祭りなど）との兼ね合いで絵札を完成させることができないという見通しがたった。子どもたちの絵を絵札にしても良いという考えもあるが、多くの子どもたちから、「せっかくタブレットがあるなら写真にしたい。」「写真の方が、より良さが伝わると思う。」「綺麗な様子を伝えたい。」という声があがった。そうした願いを叶えるために、来年度はかるたの絵札作りを主軸に活動を展開していきたいと計画をしている。

7. まとめ

今年度の総合的な学習の時間でかるた作りを行ったことは子どもたちが自分たちの「やりたい」をやることができる事につながっていた。そして、この活動を行ったことが、思考力の芽生え、思考力の高まりにつながっていたのではないかと考える。今年度幼年教育の観点から、5 年生の総合的な学習の時間を行う際にどのように授業を組み立てていけばいいか迷うことがあった。今回の実践から保育園や幼稚園で行ってきた、子どもたちの「やりたい」と子どもたちの体験・経験を活かした活動を高学年においても一組組んでいくことが大切だと分かった。活動は必ず止まってしまうことがある。そのタイミングが深い学びにつながり、そこで子どもたちは今までの経験や学びから活動を立ち上げていくことが見えてきた。今回は「思考力の芽生え」を中心として活動を行ってきたが、その 1 つの視点だけをみて子どもの成長を目指すのではなく、それぞれが関連している 10 の視点を意識しながら子どもが何をどう学んでいるかを見て、子どもに関わることを学んだ。